

パンデミックに対してレジリエントな 社会・技術基盤の構築

募集説明会：研究領域・方針説明

研究総括：押谷 仁

東北大学 大学院医学系研究科



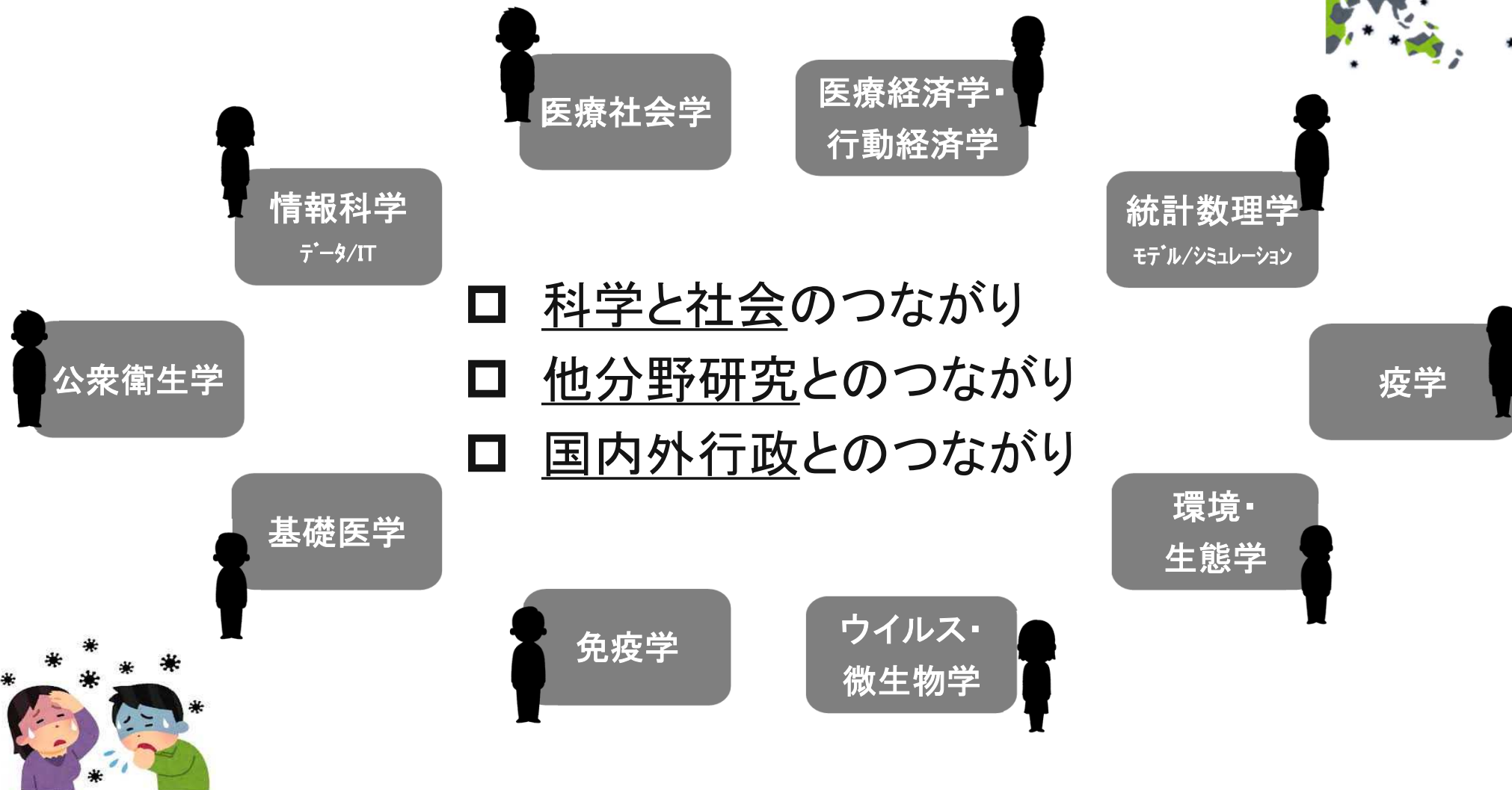
Japan Science and Technology Agency

説明内容

1. 領域発足の背景
2. 領域の目標
3. 領域アドバイザー
4. 具体的な課題例
5. 選考方針
6. 総括メッセージ
7. 選考スケジュール

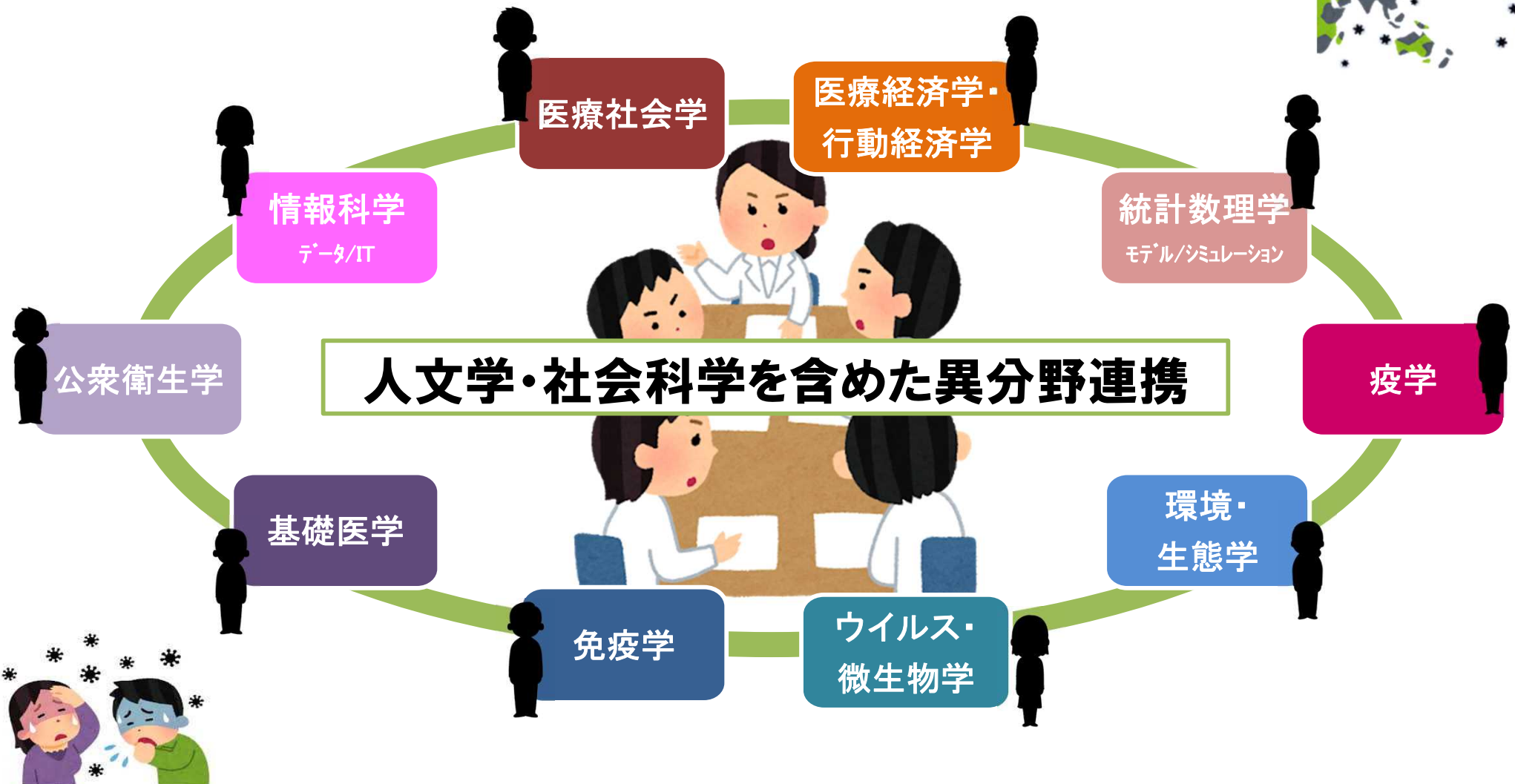
1. 領域発足の背景

個々の研究努力にもかかわらず感染拡大は続いている…



1. 領域発足の背景

個々の研究努力にもかかわらず感染拡大は続いている…



2. 領域の目標

パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤を構築するとともに、緊急時の分野横断的対応を可能とする研究者ネットワークを形成する

様々な専門性を持った研究者を結集して研究を進めることで、**各々の研究を多角的に発展**させるとともに、緊急時において国内外の感染状況を正しく理解し、分野横断的に社会の問題解決を目指すことを可能とする研究者**ネットワークを形成**する。

[領域スコープ]

- ◆ COVID-19の本質的な課題解決と将来のパンデミックにレジリエントな社会の構築
- ◆ 日本だけでなく世界に目を向けたグローバルヘルスガバナンス
- ◆ パンデミックにおける特定の国や集団の脆弱性とその要因
- ◆ データ解析や対策の評価への人文・社会学的視点の導入
- ◆ スムーズな異分野連携と社会実装を可能とするプラットフォームの構築
- ◆ 人類と感染症の共生の歴史から考える社会構造

3. 領域アドバイザー(AD)がカバーする領域

AD	専門	領域担当分野
A	公衆衛生、社会医療学	公衆衛生
B	地理情報システム、社会疫学、公衆衛生、国際保健	地理情報・公衆衛生
C	社会心理学研究分野	社会心理学・行動学
D	公共政策、ELSI	医療社会学・科学倫理
E	ウイルス、宿主との共生、生態	ウイルス・免疫学
F	システム生物学、AI、ロボット工学	システム生物学・情報科学
G	臨床熱帯医学、臨床感染症学、臨床疫学	免疫学・臨床
H	行政学、国際行政論、科学技術と公共政策	法学・科学社会学
I	医療社会学、感染症史	医療社会学・保健史
J	公共経済学、マクロ経済学	経済学・医療経済学

提案内容に応じて「情報科学」「技術・工学」分野など、外部評価者が参加予定

4. 課題例: その1

(1) ヒト・身体の問題

- 遺伝的/基礎疾患/生活環境/社会習慣など多角的視点からの各国のデータ収集と解析
- 複合要因の比較分析に基づいたAIや数理モデルによる伝播動態の解明や重症化予測
- 複合要因分析に基づいた予防医学・医療対策や公衆衛生施策の提示



(2) 環境・共生の問題

- 環境中に排出された病原体の可視化・定量化と感染性解析やサーベイランスへの活用
- 年齢・重症度・発症の有無などによる感染性の評価や社会的要因など複合要因の評価

(3) 社会の問題

- 歴史を踏まえた感染症と共生する社会構造の検討
- ELSIとデータの共有/活用を両立する情報基盤整備とリテラシー向上
- 感染症危機管理に際しての国あるいはグローバルなガバナンスの課題



4. 課題例: その2

(4) 人々の生活・集団の問題

- 感染拡大防止と社会経済の維持を両立させる公衆衛生対策の包括的評価
- 様々なコミュニティを対象とした多階層サーベイランスによる保健施策など社会システムデザイン評価
- 社会行動学や心理学的観点を含む行動変容の効果の評価や新たな数理モデルの構築



(5) 個人・命・心の問題

- 高齢者などを含むハイリスクグループや社会的弱者への効果的な介入方法の検討
- 感染拡大時における社会心理評価とリスクコミュニケーション



5. 選考方針

1. パンデミックにおける**社会的・技術的課題の解決を目指す**提案を募集します。
2. 本領域では、領域内外における異分野研究者ネットワークの構築を目指していることから、自身の研究が他分野との連携によりどのように発展し社会に貢献するのか、**学術的展開性や問題解決への道筋**などについて提案者の考えを示してください。
3. 提案の学術的先端性や優位性以上に、研究の**必要性と独自性・独創性を重要視**します。
4. **人文学・社会科学分野の提案**を積極的に採択します(全体の3割以上目安)。
5. 選考においては、**研究費が課題内容に則して適切に計上**されているかについても評価の対象とし、小さな予算規模で行う研究提案も積極的に採択します。

- 研究期間:3年半以内(2021~2024年度)
- 研究費:総額4千万円(上限)

6. 総括メッセージ

- 21世紀に入り新興感染症の流行は繰り返し起きてきている。
- 2019年に発生したCOVID-19の感染拡大は今も続いており、日本だけではなく世界的にも感染は急速に拡大しつつある。
- 変異株の問題もあり、ワクチンにより短期的にこの問題が解決する可能性は低い。
- 新たなパンデミックは今後も起きる可能性が高く、さらに大きな被害をもたらすパンデミックが発生するリスクも存在する。
- グローバル化の進展・都市化・貧富の格差の拡大などにより、パンデミックに対する世界の脆弱性が急速に高まっている。
- 持続可能でかつレジリエントな社会を構築するためには社会全体に目を向けた真の意味での異分野連携が必要。
- 新しい社会を創り出していくためには若手研究者が連携してともに考えていく必要がある。

7. 募集・選考スケジュール

募集開始	4月13日(火)
募集締切	6月1日(火)
書類選考結果の通知	7月下旬～8月上旬
面接選考会	8月上旬
選考結果公開	9月下旬
研究開始	10月1日以降

募集に関する問合せ:

rp-info@jst.go.jp

8. 補足説明：異分野連携ネットワークについて

総括方針(2021年4月13日公開)より

「背景と目標」抜粋

…様々な専門性を持った若手研究者が結集して研究を進めることで、各々の研究を多角的に発展させるとともに、緊急時の分野横断的な対策を可能とするネットワークを形成することを目指します。

「募集・選考の方針」抜粋

…本領域では、領域内外における異分野研究者ネットワークの構築を目指していることから、自身の研究が他分野との連携によりどのように発展し社会に貢献するのか、学術的展開性や問題解決への道筋などについて提案者の考えを示してください。

補足説明：

- 応募の段階で、研究提案の内容に異分野融合が含まれることを求めるものではありません。
- さきがけ研究を進めながら様々な分野の研究者と交流することで、自身の研究を多角的に発展させ、緊急時に活用できるネットワークを形成することを目指します。
- なお、提案書においては、自身のさきがけ研究が、他分野との連携によりどのように発展し、社会の問題解決などにつながるのか、将来の計画や展望を示してください。

9. 補足説明：領域アドバイザー(予定)

(注) 2021年4月20日時点で公表可能なアドバイザーのみ。今後追加予定の2名のアドバイザーについては、募集HPにて順次公開。

氏名	所属	役職
有吉 紅也	長崎大学 熱帯医学研究所 臨床感染症学分野	教授
岩本 康志	東京大学 大学院経済学研究科	教授
小坂 健	東北大学 大学院歯学研究科	教授
香西 豊子	佛教大学 社会学部	教授
菖蒲川 由郷	新潟大学 医歯学総合研究科	特任教授
城山 英明	東京大学 大学院法学政治学研究科	教授
三浦 麻子	大阪大学 大学院人間科学研究科	教授
武藤 香織	東京大学 医科学研究所 ヒトゲノム解析センター公共政策研究分野	教授